

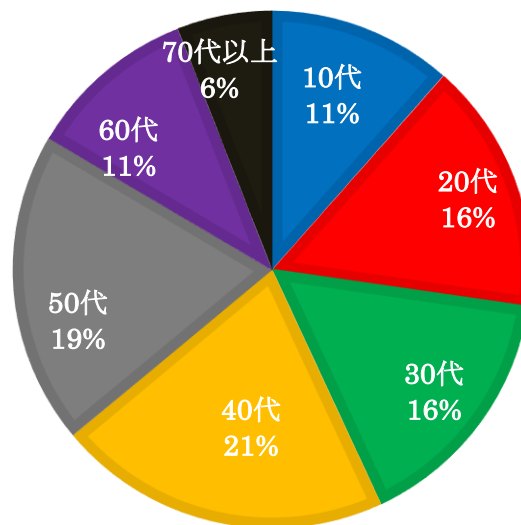
2018年度 J-BADO 結果

※医療観察法病棟を除く全病棟の新規入院

2018年度（2018年4月～2019年3月新規入院入力数）

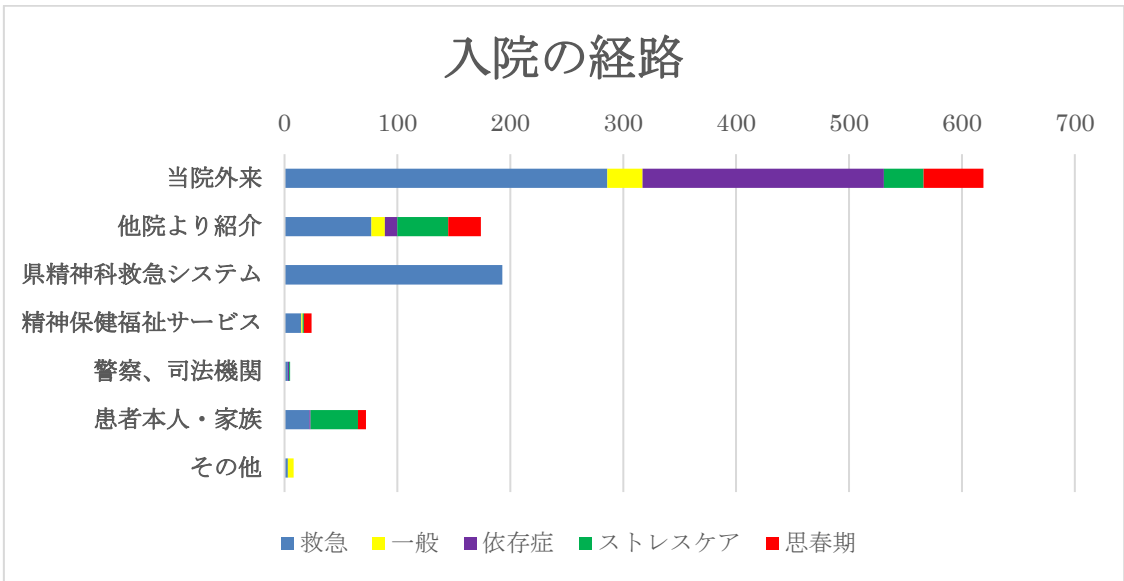
	救急	一般	依存症	ストレスケア	思春期	全体
入院数	600	49	227	124	96	1096
退院数	413	116	225	123	96	973
平均在院日数（日）	45	63	45	70	62	50

年代別入院割合

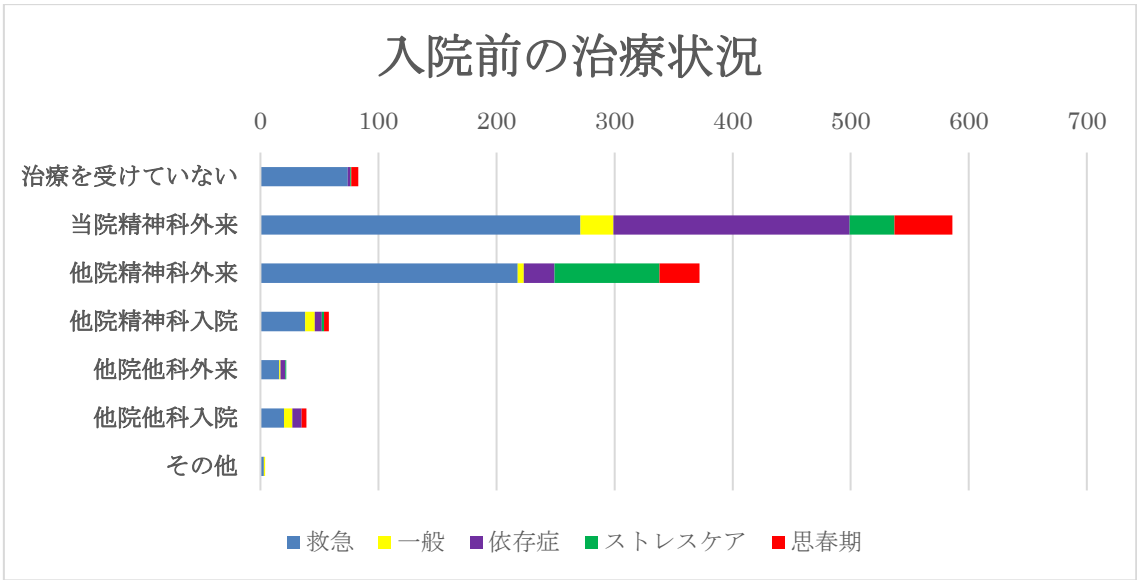


40代が最も多く、50代がそれにつづくには例年どおりの傾向である。

10代の入院のほとんどは思春期病棟への入院である。

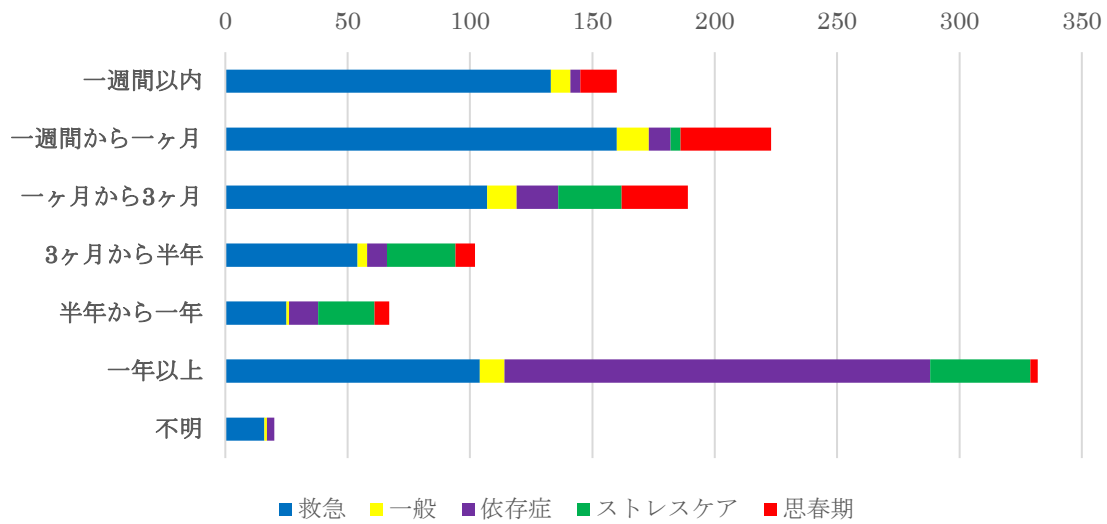


全体では当院外来からの入院から最も多い。
 救急病棟では当院入院患者と他院より紹介／県精神科救急システム患者がほぼ同数を占める。
 ストレスケア病棟では他院より紹介、患者・家族からの依頼が多い。



全体で当院精神科外来が最も多い。

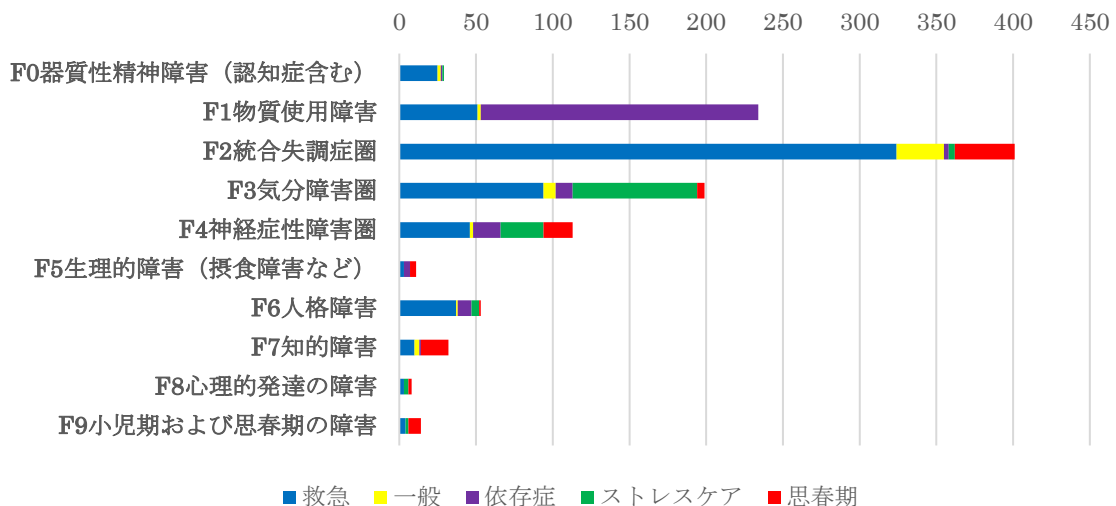
エピソード発生から入院までの期間



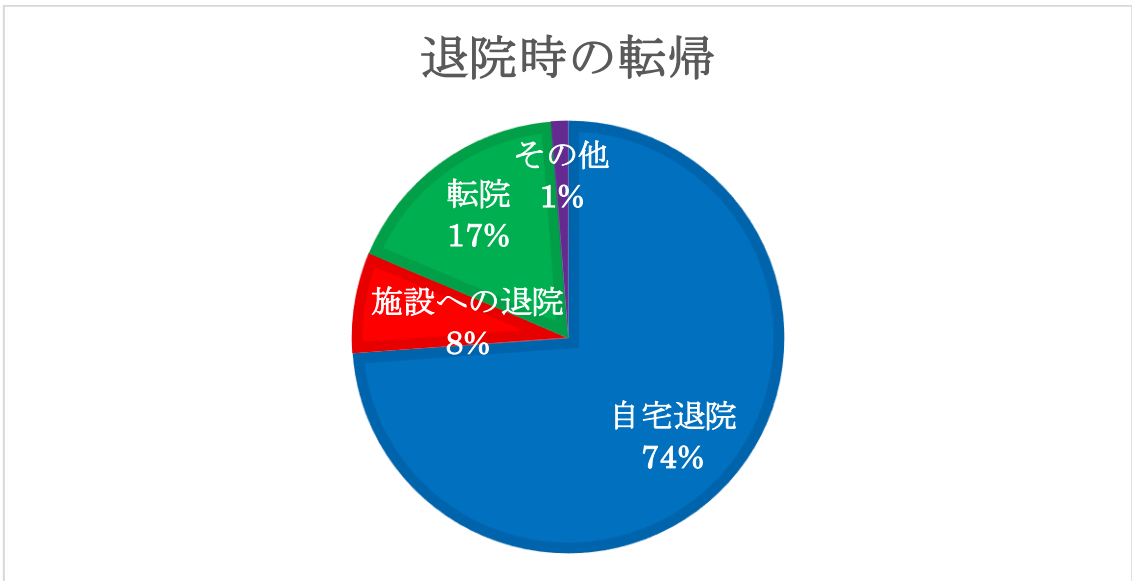
エピソード発生から入院までの期間は、発症または今回の病状悪化から、入院に至るまでの期間を指す。

救急病棟、一般病棟、思春期病棟の多くが3ヶ月以内に入院しているが、依存症病棟、ストレスケア病棟では、1年以上経過しての入院が最も多い。

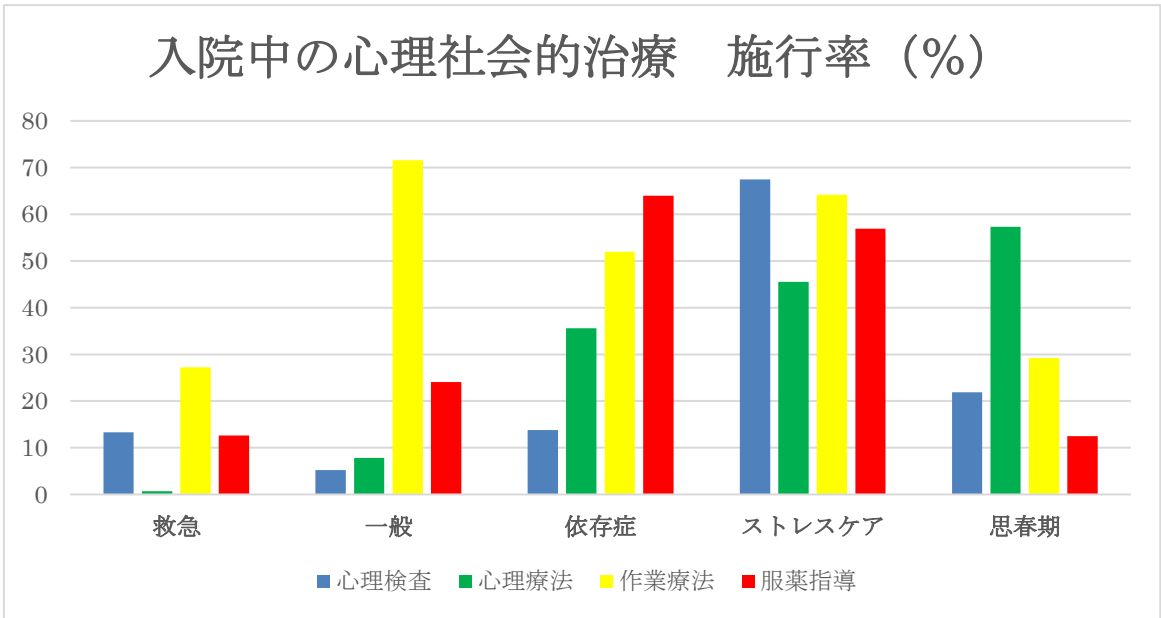
入院時診断 (ICD-10)



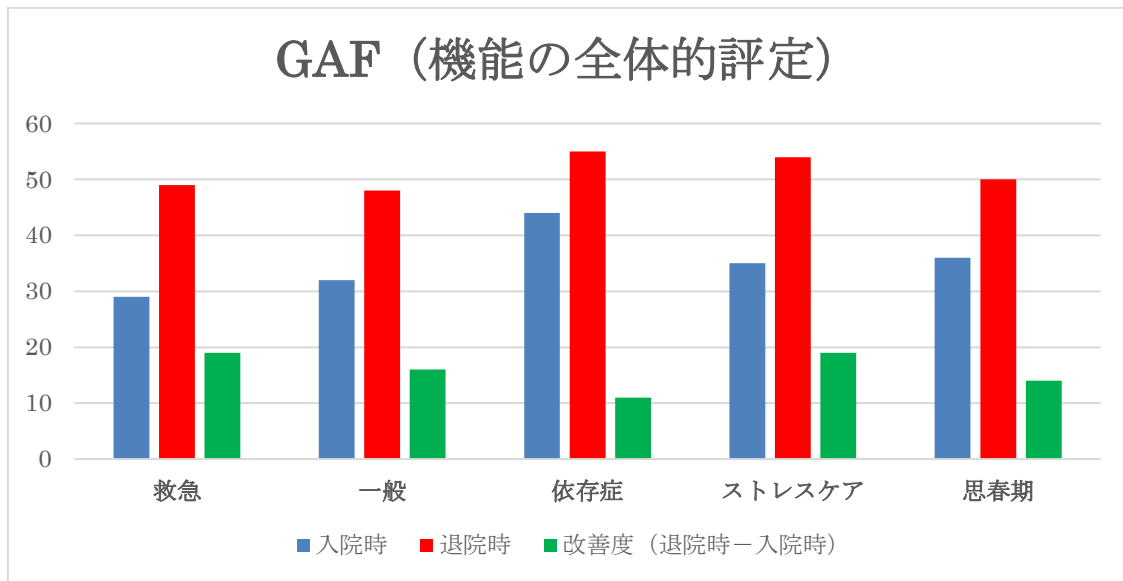
全体では統合失調症圏が最も多く、物質使用障害圏、気分障害圏が続く。



7割以上が自宅退院している。
 転院例の多くは、神奈川県救急システムの後方移送、または身体合併症のための転院である。



依存症、ストレスケア、思春期などの専門病棟では心理社会的治療の施行率が高い。
 一般病棟では作業療法施行率が高い。



GAFは100点満点で、数値が高いほど心理社会機能が高く重症度が低いことを意味している。すべての病棟でGAFは改善している。